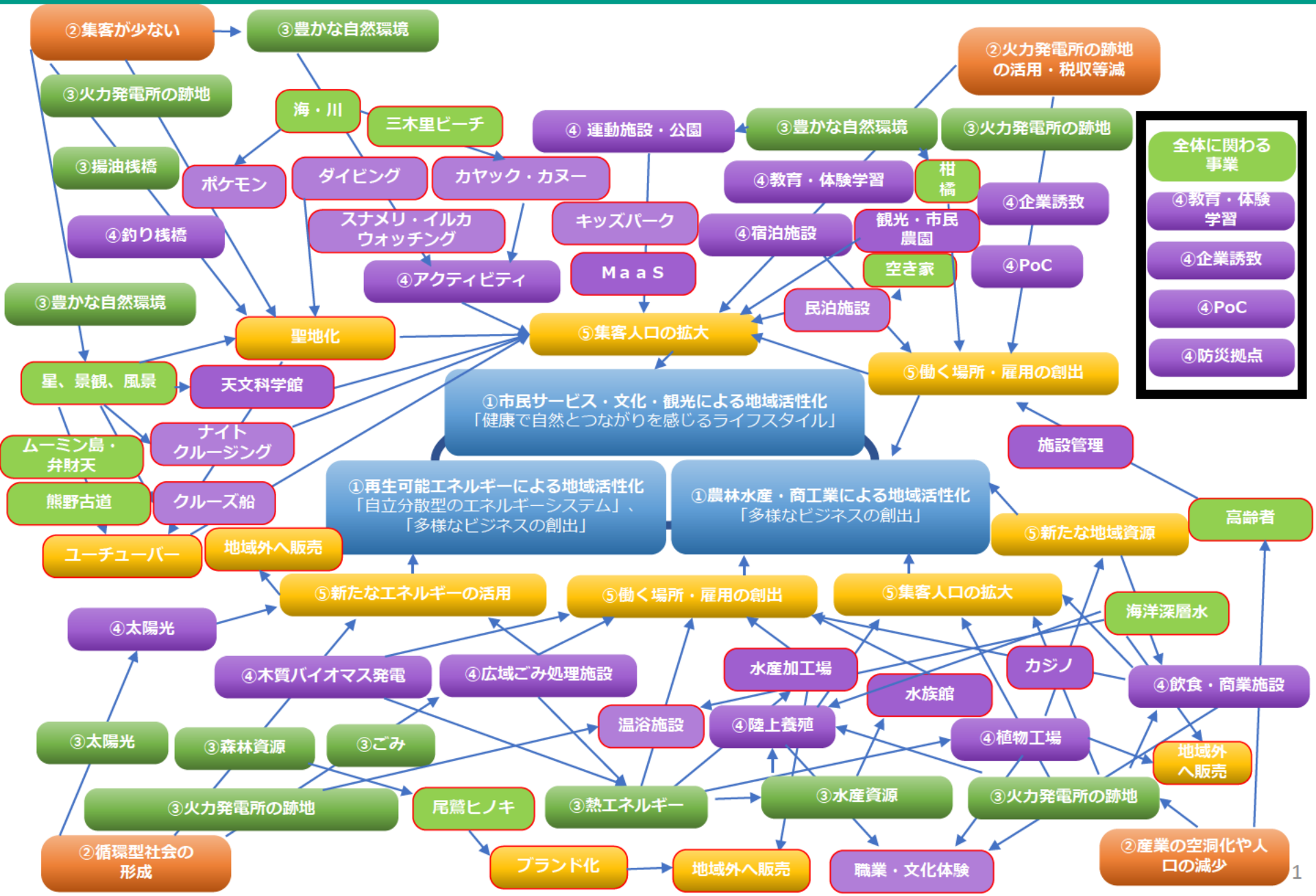
令和2年度　環境で地方を元気にする
地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業
キックオフミーティング　発表資料

活動団体名：おわせＳＥＡモデル協議会
活動地域　：三重県　尾鷲市

活動におけるテーマ・キャッチコピー
　おわせＳＥＡモデルを活用した
　　「ふるさと尾鷲」の復活

地域循環共生圏を実現することで目指す地域の姿



昨年度の取組の概要（仮説と実践、気づき）

当初予定していた取組

2019年3月22日に策定したグランドデザインに基づき、S・E・Aの各プロジェクトにおいて具体的な検討を進めていく。

- 魅力的なコンテンツの設定
- 企業誘致の実現
- 各事業における事業性の担保及び事業運営スキームの確立
- 各事業・施策の連携による相乗効果発揮に向けた検討

実践の中での気づき

- 立場の違う３者（市・中部電力・尾鷲商工会議所）が連携し、１から事業を構築していくことへのやりがい
- 津波浸水域、大規模商圏からの距離などハンデを乗り越える方策検討の必要性
- 地域に内在する資源・資産の魅力発見・活用
- 事業構築にあたっての課題
- 事業・施策連携による事業性確保

実際に行った取組

- 当初のグランドデザインを更に深掘りした、ＰＪ－Ｓの開発コンセプト、エリアゾーニングなどの再構築
- 関連事業視察を通じた事業構築にあたっての課題整理
- 地域に内在する資源・資産を活用した事業展開の可能性検討
- 企業との意見交換を通じた課題等の把握
- 陸上養殖に関する実証実験(事業性調査)

事業のタネ３つ

- **ＰＪ－Ｓ（市民サービス･文化･観光事業）**
  広大な跡地(E･Aも同じ。)
  既存資源･資産を活用したアクティビティ事業の展開
  防災機能の役割
- **ＰＪ－Ｅ（エネルギー事業）**
  東紀州地域の森林資源
- **ＰＪ－Ａ（農林水産･商工業事業）**
  木質バイオマス発電などエネルギー施設から排出される熱・ＣＯ2などの未利用エネルギー

昨年度の取組を踏まえた課題とその対応

環境整備についての課題

- **ステークホルダーの巻き込みについて**
  - ・事業検討の初期段階であり、ステークホルダーの一応の整理は出来たが、具現化に向けた巻き込みまでには至っていない。
- **目標（成果指標）について**
  - ・地域循環共生圏を踏また短期・長期の成果指標の設定や目標を数値で表すことが難しかった。
- **その他**
  - ・インフラ整備、管理運営体構築を誰が、どのように進めるか。

環境ローカルビジネスの事業化に向けた課題

- **ＰＪ－Ｓ**
  - ・事業の進め方
  - ・市民や企業の巻き込み方
  - ・資金獲得方法
- **ＰＪ－Ｅ**
  - ・バイオマス燃料材の確保
  - ・事業性の確保
  - ・林業従事者の高齢化、人手不足
- **ＰＪ－Ａ**
  - ・農業系産業が少ない
  - ・基本インフラ整備に係る整備費負担
  - ・新規事業着手へのハードル

課題を打破するための今年度の取組

【全　　体】再ゾーニングの検討、管理運営体の構築、インフラ整備内容の決定、企業誘致活動

【ＰＪ－Ｓ】Sゾーンにおける基本計画の策定（２～３事業の具現化）

【ＰＪ－Ｅ】バイオマス発電事業の具現化に向けた燃料調達活動、ＦＩＴ申請、事業体制の構築

【ＰＪ－Ａ】事業進出を検討している企業について、現地実証試験等を含めたＦＳ調査

今年度の新たなチャレンジと到達目標

新たにチャレンジしたいこととその具体的な取組

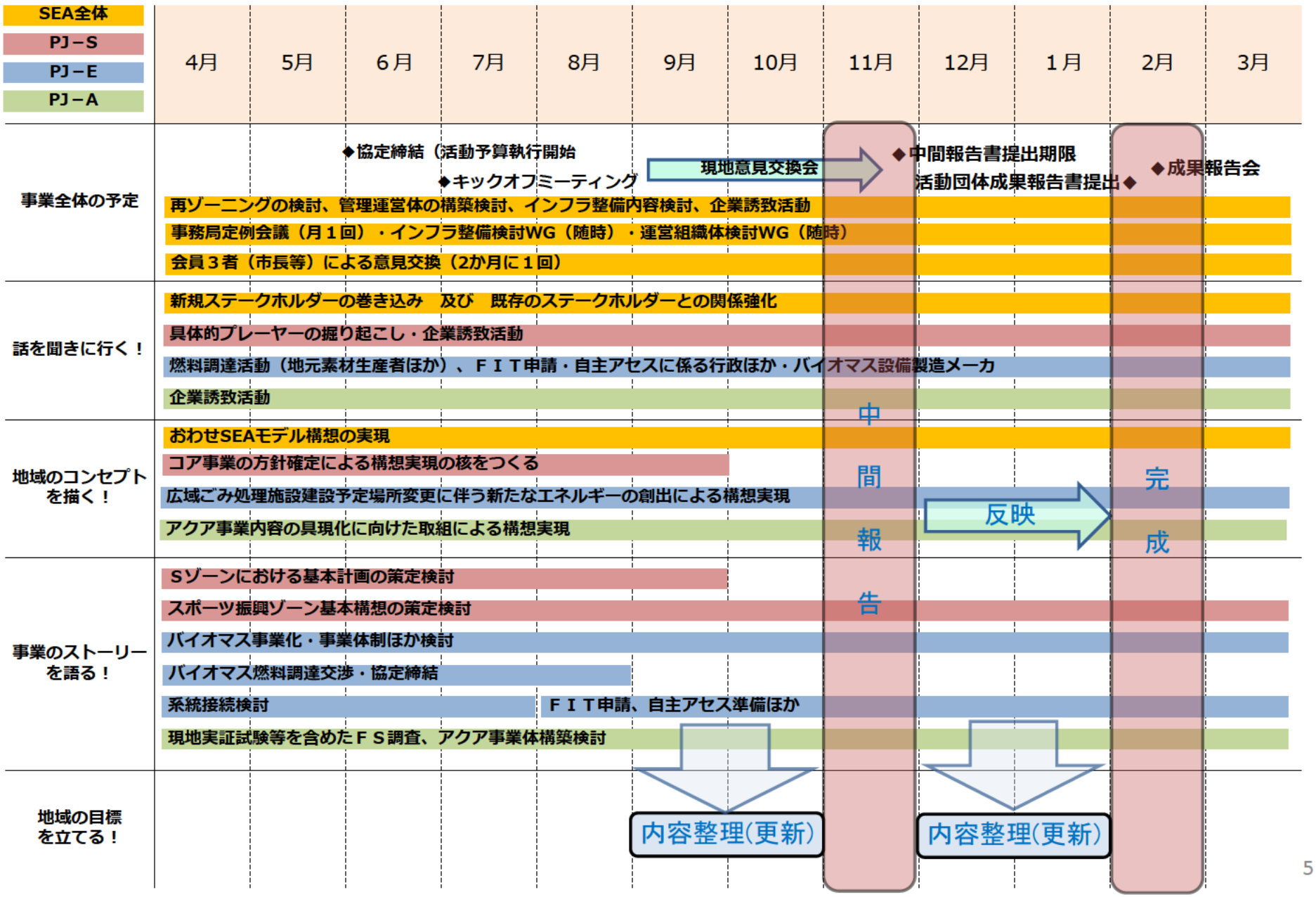
- ＰＪ－Ｓビジョンの具現化に向けた検討
- スポーツ振興ゾーン基本構想検討
- 管理運営体の構築検討
- インフラ整備内容の検討
- バイオマス発電事業の具現化向けた検討
- アクア関連の事業体構築に向けた検討
- 新規事業の誘致活動・事業実現に向けた企業マッチングの場の設置

今年度の到達目標

既存の資源を活用しながら、市民とともに一つひとつ創り上げていくことにより、地域内循環はもとより、地域外を巻き込んだ中での事業展開を行うことで、持続可能な循環型社会の構築を図る。

- ＰＪ－Ｓビジョンの具現化に向けた基本計画の策定（2020年9月末）
- スポーツ振興ゾーン基本構想の策定（2021年3月末）
- 管理運営体の構築に向けた下地作り（2021年3月末）
- インフラ整備内容の決定（2021年3月末）
- バイオマス発電事業の具現化に向けた燃料調達活動、事業体制の構築（2021年3月末）
- 陸上養殖・植物工場などの実験研究、事業スキーム検討・事業計画策定（2021年3月末）

年間スケジュール


SEA全体
PJ－S
PJ－E
PJ－A
4月
5月
6月
7月
8月
9月
10月
11月
12月
1月
2月
3月
事業全体の予定
◆協定締結（活動予算執行開始
◆キックオフミーティング
現地意見交換会
◆中間報告書提出期限
活動団体成果報告書提出◆
◆成果報告会
再ゾーニングの検討、管理運営体の構築検討、インフラ整備内容検討、企業誘致活動
事務局定例会議（月１回）・インフラ整備検討WG（随時）・運営組織体検討WG（随時）
会員３者（市長等）による意見交換（2か月に１回）
話を聞きに行く！
新規ステークホルダーの巻き込み　及び　既存のステークホルダーとの関係強化
具体的プレーヤーの掘り起こし・企業誘致活動
燃料調達活動（地元素材生産者ほか）、ＦＩＴ申請・自主アセスに係る行政ほか・バイオマス設備製造メーカ
企業誘致活動
地域のコンセプトを描く！
おわせSEAモデル構想の実現
コア事業の方針確定による構想実現の核をつくる
広域ごみ処理施設建設予定場所変更に伴う新たなエネルギーの創出による構想実現
アクア事業内容の具現化に向けた取組による構想実現
中間報告
反映
完成
事業のストーリーを語る！
Ｓゾーンにおける基本計画の策定検討
スポーツ振興ゾーン基本構想の策定検討
バイオマス事業化・事業体制ほか検討
バイオマス燃料調達交渉・協定締結
系統接続検討
ＦＩＴ申請、自主アセス準備ほか
現地実証試験等を含めたＦＳ調査、アクア事業体構築検討
地域の目標を立てる！
内容整理(更新)
内容整理(更新)

最後に

新規に取り組む団体へメッセージ

- 予算等確保が厳しいなか、活動を進めるにあたって非常に柔軟に活用出来き、視察を通じた課題整理、企業との意見交換による気づきなど、次の動きに繋げる上で非常に有益な取組が出来たと感じており、普段なかなか予算的都合により出来ないこと、補完的なものとして活用を図って頂くのが良いのではと思います。
- 地域にあるものをいかにうまく活用し、環境・社会・経済を循環させるものを創っていかなければ、構想そのものが成り立たない、持続性が担保出来ないことが理解出来ました。今後、取組を進めるにあたっては、スタートの考え方に固執するのではなく、より柔軟な視点をもつことで、新たな発見があり、そして、より良い事業展開に繋がると思います。

こんなことを助けて欲しい！

- 63万4千㎡の広大な発電所跡地の活用について、資金がなく、立場の違う３者（市・中部電力・尾鷲商工会議所）が１から新たなモデル（おわせSEAモデル）を構築していくには課題も多く、難しさを痛感しているが、跡地問題は、全国の自治体が今までも、今度も抱える大きな問題であり、自治体の存続にも大きく影響する案件であるため、何としてもこの構想を実現させたいと考えており、モデル事業として今まで以上の国の支援をお願いしたい。
- 取組みに対する更なる情報発信への支援